

民俗文化財を活用した新たな観光市場 - 奥三河地域の観光関連市場に向けた製品開発について

平成4年に「地域民俗芸能を活用した行事の実施による観光および特定地域商工業の振興に関する法律」が制定され、これを契機に地域に伝わる民俗芸能の観光資源としての価値が広く認められるようになりました。

瀬戸窯業技術センターでは瀬戸地域陶磁器製品の新販路、新顧客開拓のため、本県の優れた民俗文化財に着目し、その観光関連市場の調査を実施しています。

1. 奥三河観光市場の将来性

本県の伝統的な民俗芸能は、およそ40%が北設楽郡3町村及び旧南設楽郡を中心とした奥三河地域に伝承されています。奥三河地域は本県最北東の山間部に位置し、古くから「塩の道」による文化、経済交流の拠点として独自の文化圏を醸成してきましたが、都市部に経済が集中し山村の衰退が進む中、観光関連市場は小規模にとどまっています。

しかし、昨今奥三河地域には三遠南信自動車道をはじめ大規模な高速交通網整備が予定され、本県でも「あいち山村振興ビジョン」により、平成25年から本格的に奥三河を含む県内山間域に振興事業が実施される運びとなりました。今後、都市部との時間的な距離が短縮され、基盤整備が進むことによりこの地域の民俗文化財を活用した観光市場の拡大が見込まれ、それと同時に関連商品の需要拡大が期待されます。

2. 市場調査

奥三河地域に広く伝承される伝統芸能「花祭」は、本県で最初に国の重要無形民俗文化財に指定されたことで広く知られており、奥三河を象徴する祭りとなっています。特にここ数年、県、町、地元保存会、支援団体のユネスコ世界無形遺産リストへの掲載を目指した取り組みが注目されています。

そこで今回は、東栄町を中心に奥三河地域の花祭を観光資源とした観光関連市場を対象に市場調査を行い、関連製品開発と市場参入の可能

性を検討しました。

観光関連施設の土産物売り場、売店の商品調査では、長野、岐阜など他県産品が大半を占め、地域のオリジナル商品に乏しく、地域の主力観光資源である「花祭」関連のお土産品は、わずかに地元1社が紙、木を素材にした商品を製造しているのみで、他に陶磁器製品など競合する製品は製造、販売されていないことが明らかになりました。調査先の観光施設への聞き取りにおいても花祭をテーマにした新規製品の取り扱いの可能性について、各施設、店舗は、前向きに考えており、花祭をモチーフにした陶磁器製品の参入は有望であると考えられます。

3. 製品開発の可能性

瀬戸地域の陶磁器メーカーは、多品種小ロットの生産に対応できるため、今回対象とした奥三河の観光市場のように、現時点で小規模な市場のニーズにも応えやすいという利点があります。また、観光土産品の企画や製造を得意とするノベルティメーカーが多数あることから、多様な商品展開が可能であると同時に、製品企画においてメーカーの持つ技術やセンスが大いに活かされると考えられます。

当面の具体的な製品開発の方向としては、町内11箇所ある花祭の開催地域と連携し、祭りの際に参加者に提供する記念品を提案・開発する
一般観光客向けに花祭のイメージをアピールする陶磁器製品を開発し観光施設や観光イベントに向けて提案・開発する
の2つの方向が考えられます。

4. おわりに

陶磁器業界は、流通形態が変化し産地卸が減少する中、従来の販路が縮小し、新販路の開拓に苦慮する状況が続いています。県内には大手商社や企業が見過ごしている、あるいは対応できない小規模ながらも将来性のある市場が存在します。それらを掘り起こし、産地企業の販路開拓を支援していきたいと考えています。



瀬戸窯業技術センター 応用技術室 長谷川 恵子 (0561-21-2117)
担当分野：陶磁器デザイン